

令和 9 年度 文京区立中学校部活動地域展開に向けて (サッカー部、バドミントン部)

○ 昨年度までの整理

- 1 「文京区立中学校部活動地域展開実施計画2026」
- 2 児童・生徒へのアンケート

○ 本区の部活動の実情

(特に令和9年度から地域展開モデル競技種目としているサッカー部とバドミントン部について)

- 1 サッカー部
- 2 バドミントン部

○ 令和9年度部活動地域展開の方向性と課題

- 1 本区の実態を踏まえた方向性と主な課題
- 2 休日の活動会場（拠点）校案（サッカー、バドミントン）

第一次目標 : 休日における部活動の教員に頼らない指導体制の構築

重点戦略 1

地域クラブ活動の土台作り

取組

- ・ 休日の地域クラブ活動の推進

重点戦略 2

部活動の地域展開について理解促進

取組

- ・ 教員の理解促進
- ・ 保護者・地域の理解促進

重点戦略 3

豊かな活動の提供

取組

- ・ 新たな分野での地域クラブ活動

- 令和9年度からは、「休日の合同部活動」ではなく「休日の地域クラブ活動」を段階的に実施することとして、その運営及び指導を外部委託する。
- 中体連主催の大会への出場はこれまでと同様に中学校単位で参加する。



○ 令和6年1月実施 児童・生徒・保護者アンケートから

調査期間	令和6年1月19日（金）から令和6年1月31日（水）まで		
対象者	文京区立小学校第5・第6学年児童及びその保護者 文京区立中学校第1・第2学年生徒及びその保護者		
調査方法	WEB回答（対象者が二次元コード等を読み取り回答する）		
回答率	児童30.5%	生徒49.1%	保護者65.3%

< 中学生 >

問8 「休日の部活動が地域連携・地域移行となり、あなたがその活動に参加するとしたら、どのような活動がしたいか」

- ・ 約半分が普段の延長を望んでいる。
- ・ 2割強が普段と異なる活動を望んでいる。

問9 「休日の部活動が地域連携・地域移行となり、あなたがその活動に参加するとしたら、どのような指導者がよいか」

- ・ 必ずしも学校の教員による指導を望んでいるわけではない。

問11 「部活動ではなく学校以外のスポーツ活動・文化活動を選んだ理由は何か」

- ・ 学校の部活動にない活動を外部でやろうとする生徒はごく一部。（男女ともに）

< 小・中学校 >

問6・7 「休日の部活動が、地域連携・地域移行となった場合、その活動に参加したいか」

- ・ 中学生の4割近くが参加したくない、そもそも活動したくないと回答している。
（小学生・中学生共に傾向は同じ。）

【文京区立中学校部活動地域展開実施計画2026より】

○ 令和7年5月実施 児童・生徒へのアンケートから

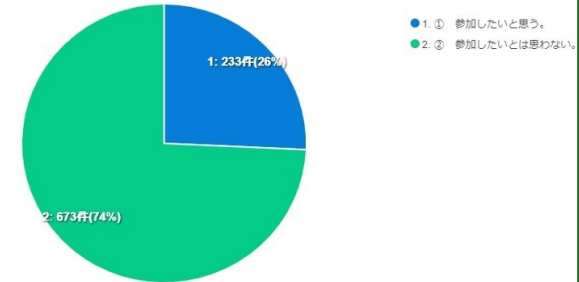
● 休日の合同部活動実施に向けた児童・生徒アンケートの実施
 対 象 区立小学校第6学年及び区立中学校第1・2学年
 回答期間 令和7年5月12日（月）から5月30日（金）まで
 回答率 小6 70.0% 中1 58.5% 中2 48.3% 全体 62.3%

・ 「児童・生徒が合同部活動に参加したいと思わない（74%）」

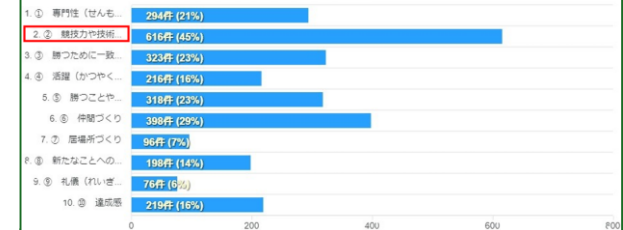
・ 「休日の合同部活動に期待することは、①競技力や技術力（45%）、
 ②仲間づくり（29%）、③勝つための連帯感（23%）、
 気軽に楽しめる雰囲気（23%）」

・ 「休日の部活動への参加の仕方は、平日と同じ競技を希望する（29%）、
 平日と同じ練習場で同じ指導者を希望する（22%）と現状からの変化を
 求めない生徒の割合が約50%。また、休日は休みたい（34%）」

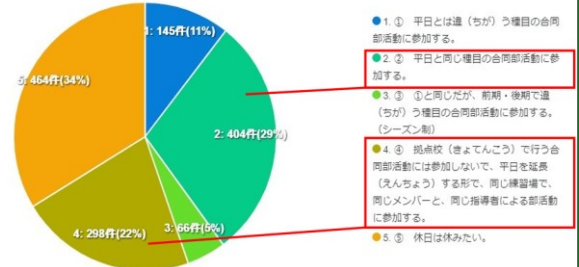
休日の部活動について運動部の合同部活動に参加したい
 と思いますか。



休日の合同部活動に参加する場合、期待することは何ですか。



令和8年度からの休日の部活動への参加の仕方として、
 次のうちどれがよいですか。



【令和7年度第2回文京区立中学校部活動地域展開に係る合同部活動検討ワーキング・グループ資料より】

○ 児童・生徒アンケートからみえてくるもの

参加意欲

- ・ 参加したいと思わない 74%
- ・ 休日は休みたい 40%

体制・方針

- ・ 現状の部活動体制を維持 50%
- ・ 変化を求めない 50%
- ・ 勝ちたい 23% 楽しみたい 23%

期待

- ・ 普段と違う活動を希望 20%
- ・ 技術力向上 45%、仲間づくり 29%
- ・ 新種目希望（ボウリング、eスポーツ）

○ 児童・生徒の声に寄り添いながらも持続可能な部活動を実現するため、改革の実現には、関係者全員で乗り越えねばならない一定のハードルはある。

○ 地域展開の具体的な内容が提示されない時点でのアンケート結果であることから、児童・生徒の不安を解消することや意欲のある生徒の期待に応えられる魅力ある活動環境の提供が求められていると解釈する。

○ 有資格者など、技術に精通した指導者を確保することなど、生徒の満足度を高めると共に教員の負担軽減に繋げる必要がある。

○ 昨年度までの整理

- 1 文京区立中学校部活動地域展開実施計画2026」
- 2 児童・生徒へのアンケート

○ 本区の部活動の実情

(特に令和9年度から地域展開モデル競技種目としているサッカー部とバドミントン部の現況について)

- 1 サッカー部
- 2 バドミントン部

○ 令和9年度部活動地域展開の方向性と課題

- 1 本区の実態を踏まえた方向性と主な課題
- 2 休日の活動会場（拠点）校案（サッカー、バドミントン）

部員と指導者

【令和 8 年6月調査より】

No.	学校名	部員数 (R8)			部員数 (R7)			活動日							顧問 教員	専門 教員* 【a】	部活 指導員 【b】	外部 指導員 【c】	専門 指導 【d】**	土日の指導者数	
		全	男	女	全	男	女	月	火	水	木	金	土	日						顧問	指導員 補助員
1	第三	27	24	3	21	18	3		●		●	●	●		2	0	0	0	0	0	0
2	音羽	24	24	0	29	29	0		●	●		●	●		2	1	1	0	2	0	1
計		51	48	3	50	47	3								4	1	1	0	2	0	1

●活動日

* 顧問教員のうち専門的指導可能教員

** 【d】 = 【a】 + 【b】 + 【c】

(株)ソレイユとの文京区立中学校サッカー部指導運営業務委託（令和 6 年 4 月～）

活動会場：第三中学校、音羽中学校 校庭

（雨天の場合、体育館等で実施、合同部活動の場合も同じ。）

活動時間：平日は 2 時間程度、週休日（祝日等を含む）は 3 時間程度

（練習は一部を合同で、残りを各校で実施、大会は各校で出場している。）

指導者※： 1 名以上配置

※指導者については、JFA（日本サッカー協会）公認サッカー指導者ライセンスC級以上取得者（取得見込み含む）又は同等以上のサッカー指導者ライセンス取得者（海外を含む）を原則

部員と指導者

【令和 8 年6月調査より】

No.	学校名	部員数 (R8)			部員数 (R7)			活動日							顧問 教員	専門 教員* 【a】	部活 指導員 【b】	外部 指導員 【c】	専門 指導 【d】**	土日の指導者数	
		全	男	女	全	男	女	月	火	水	木	金	土	日						顧問	指導員 補助員
1	第一	50	30	20	46	23	23	●	●		●	●	▲	▲	2	2	1	0	3	2	0
2	第三	24	10	14	22	13	9	※	●		●		▲	▲	3	0	2	0	2	0	2
3	第六	36	17	19	41	21	20	●			●		●		2	2	1	0	3	2	1
4	第九	25	11	14	25	8	17			●		●	▲	▲	2	1	1	1	3	2	1
5	第十	49	25	24	37	23	14	●	●			●	●		2	1	0	2	3	2	2
6	文林	26	12	14	21	8	13	●	●		●	●	●		3	0	2	0	2	3	1
7	本郷台	30	17	13	30	12	18	●	●		●		●		1	0	2	0	2	0	1
計		240	122	118	222	108	114								15	6	9	3	18	11	8

●活動日
▲土日どちらか1日
※校内トレーニング
*顧問教員のうち専門的指導可能教員
**【d】 = 【a】 + 【b】 + 【c】

合同部活動

月 1 回程度、休日に区内 4 校（各校持ち回りで）実施した実績あり（現在は終了）

○ 昨年度までの整理

- 1 文京区立中学校部活動地域展開実施計画2026」
- 2 児童・生徒へのアンケート

○ 本区の部活動の実情

(特に令和9年度から地域展開モデル競技種目としているサッカー部とバドミントン部について)

- 1 サッカー部
- 2 バドミントン部

○ 令和9年度部活動地域展開の方向性と課題

- 1 本区の実態を踏まえた方向性と主な課題
- 2 休日の活動会場（拠点）校案（サッカー、バドミントン）

○ 上記の実現に向けて、令和9年度9月以降の具体的な地域展開推進のしくみづくり

サッカー部 : 現在の合同部活動のしくみを活かしつつ、地域クラブ活動へ更に発展、進めることで良いか。

バドミントン部 : 外部資源を利活用し、(大会参加を除き) 休日の部活動は、外部委託等により教員頼らない活動環境を整備する方針で良いか。

※休日の地域クラブ活動に意欲的な教員(顧問)と部活動指導員に理解・協力が得られやすい働き方(しくみ)も検討する。

○ 令和9年度実施会場(拠点)校の考え方と設置(特にバドミントン)

現在活動中の生徒全員が参加し、練習できる受け入れ環境を整える必要があると考える。また、将来的な平日の部活動地域展開を見据え、現在、部が存在する各校別を基本に一部合同部活動のような展開も試行し、会場(拠点)校化した場合の生徒の参加状況なども評価(地域展開後の状況を踏まえた見直しも)できる設置としてはどうか。

※会場(拠点)校案はスライドP13~17参照

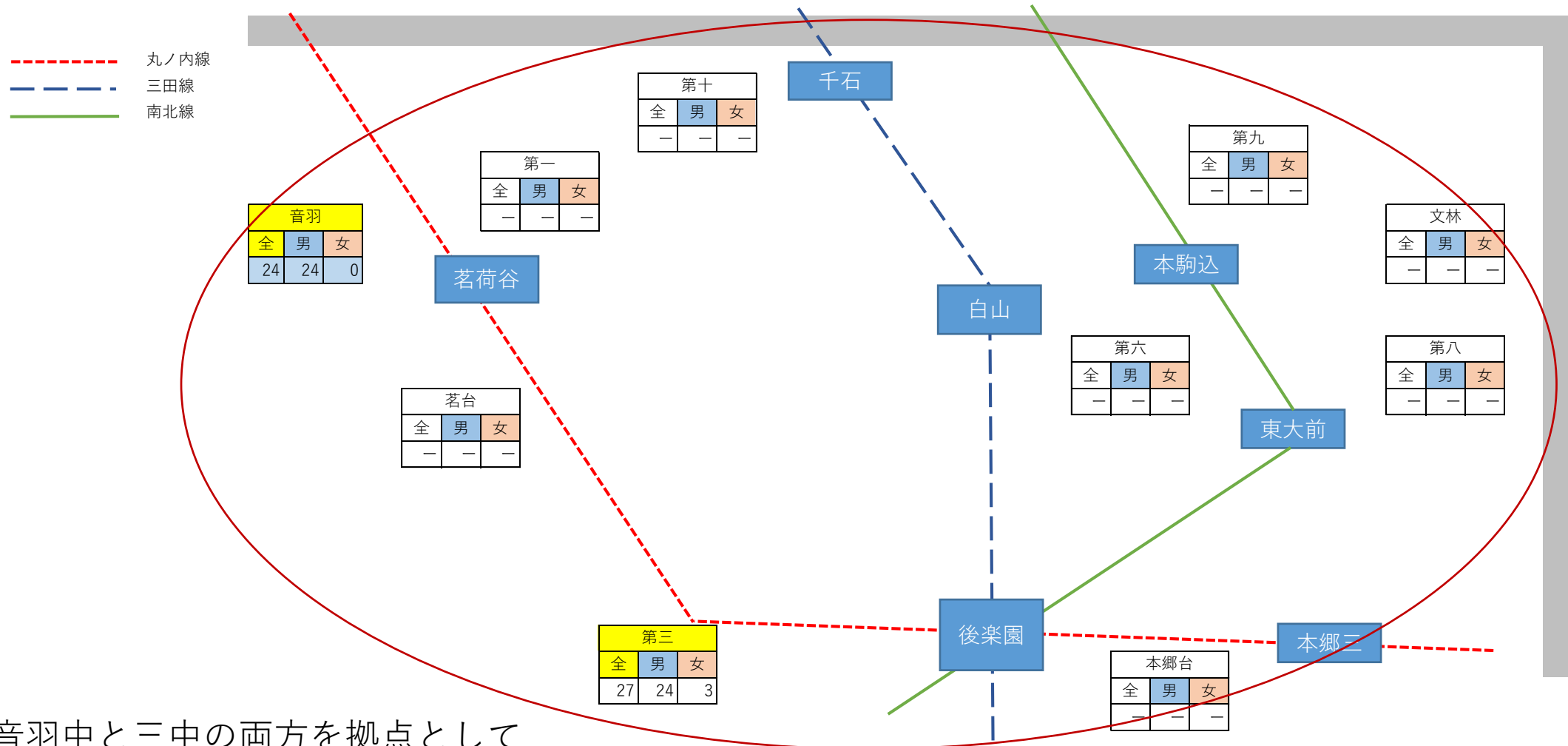
○ 現在、教員が担っている中学校体育連盟の大会に向けた段取り、運営の一例

STEP	主な業務内容
0	各校、毎年4月中～5月上旬頃までに生徒が入部を決める
1	区大会役員教諭が区大会要項を作成、配布
2	各校申込様式にて大会参加申込み
3	協会選手登録（費用の払い込み）
4	組合わせ抽選（顧問会議出席）
5	大会（試合本番） 顧問が引率、設営、審判（審判資格保持者のみ。一部生徒がタイムキーパーなど補助）、弁当手配等
6	都大会の運営は、中体連役員と会場校の教員で運営（役割がない顧問は引率のみ）

現時点では、これら業務を完全に外部資源に委託することは困難であり、
地域展開後も顧問（教員）の協力・連携は不可欠と認識する。

サッカー 案：1～2会場

拠点化	男女合同	男・女別	男子のみ	女子のみ
-----	------	------	------	------

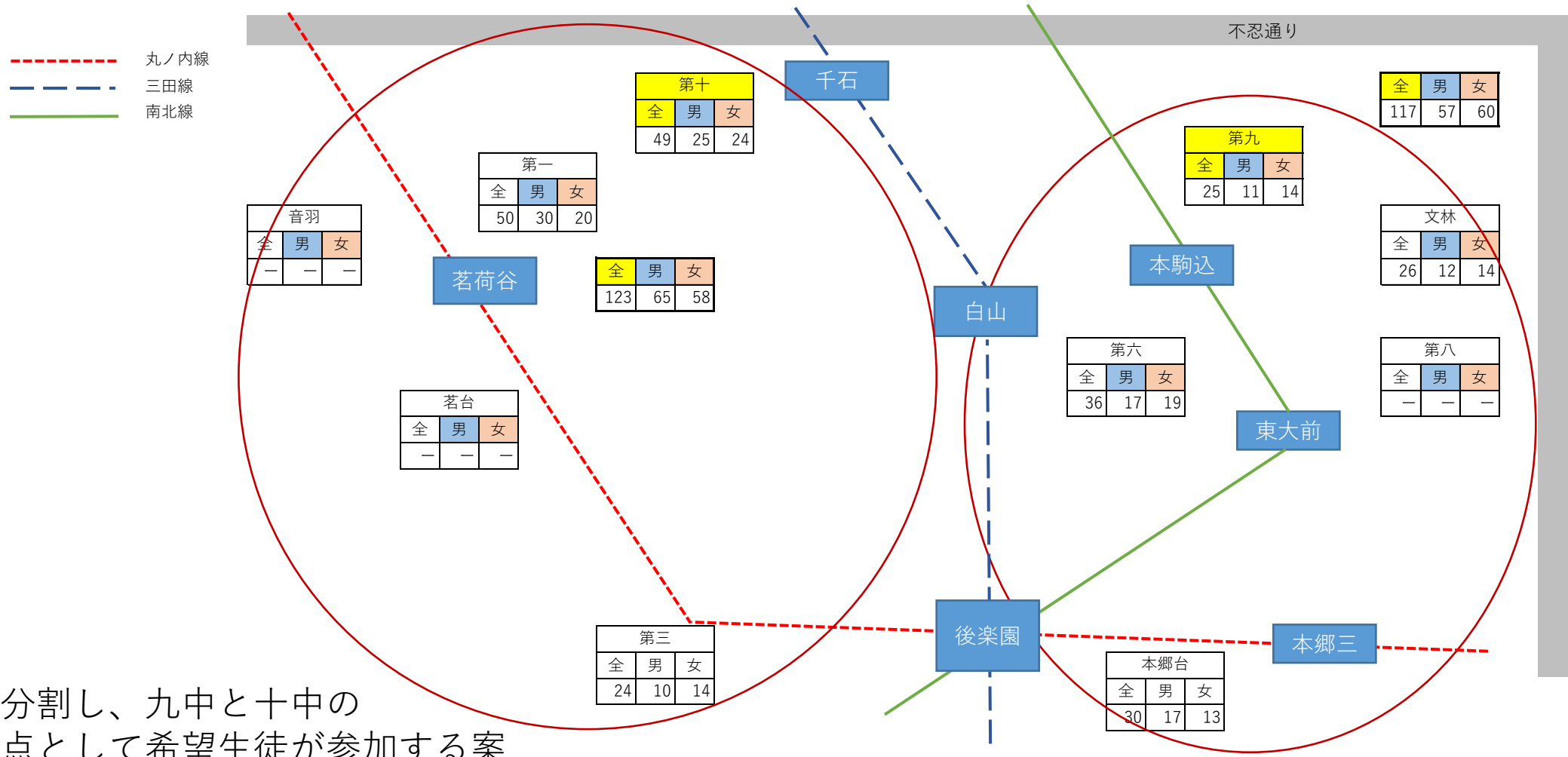


現行の音羽中と三中の両方を拠点として
全区立中学校より希望生徒が参加する案
(令和7年度校長事前説明案)

【部員数は令和8年6月調査による】

バドミントン 案①：2会場

拠点化	男女合同	男・女別	男子のみ	女子のみ
-----	------	------	------	------



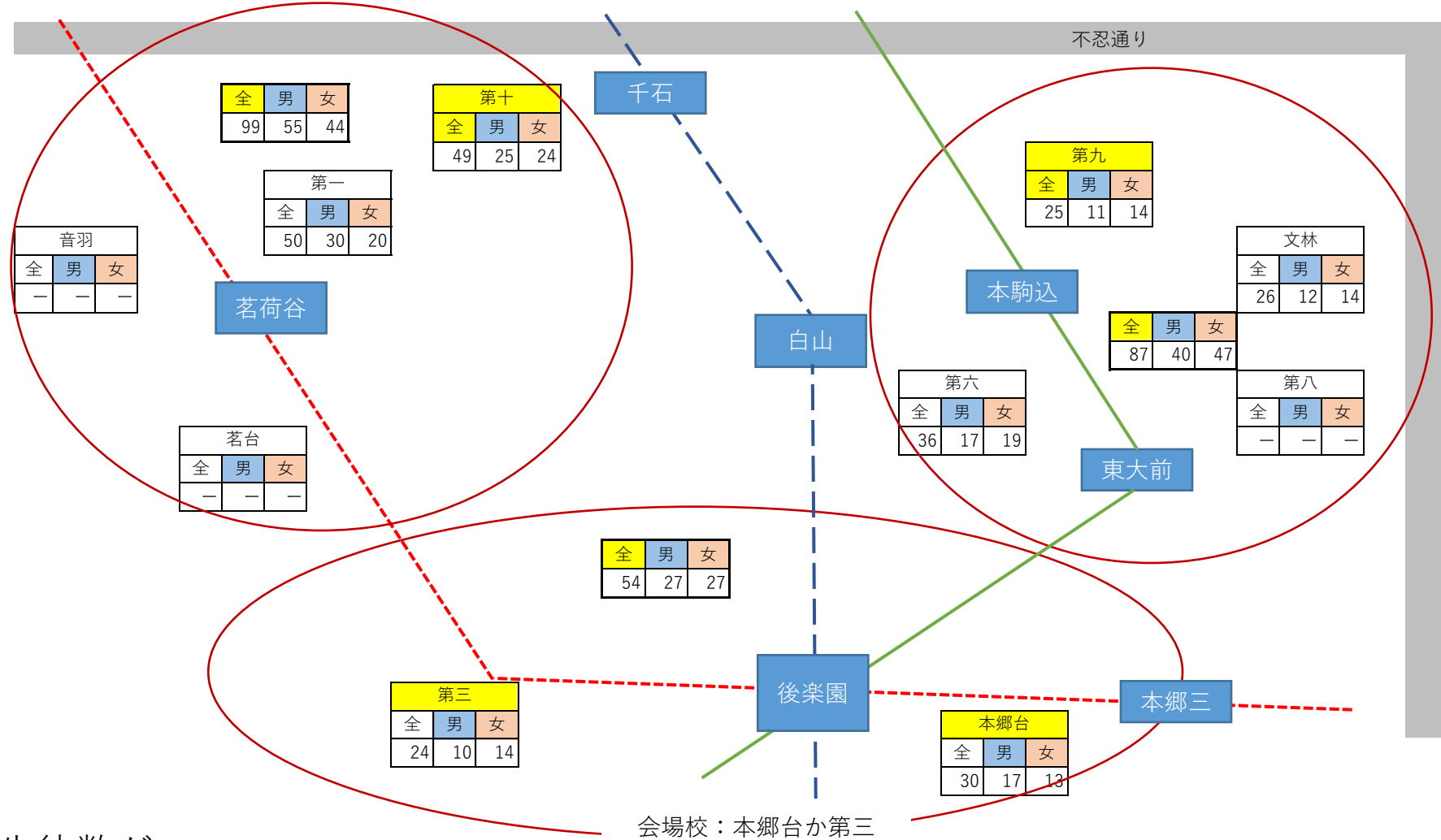
全区を2分割し、九中と十中の
両校を拠点として希望生徒が参加する案
(令和7年度校長事前説明案)
1会場あたり最大110～120名規模が想定される

【部員数は令和8年6月調査による】

バドミントン 案②：3会場

拠点化	男女合同	男・女別	男子のみ	女子のみ
-----	------	------	------	------

- - - 丸ノ内線
 - - - 三田線
 - - - 南北線



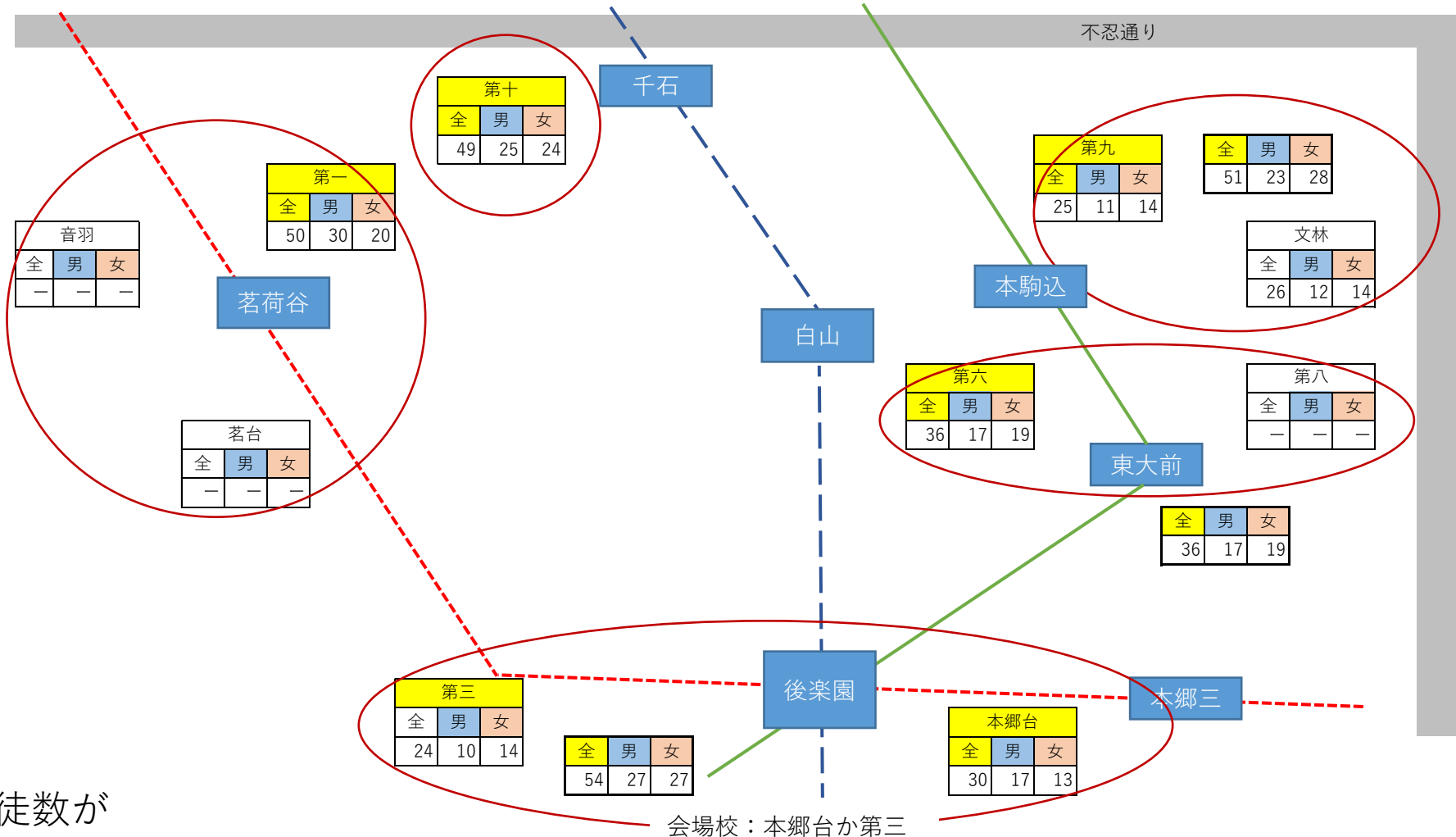
会場（拠点）あたりの生徒数が
90名規模2会場、50名規模1会場となる3分割した案

【部員数は令和8年6月調査による】

バドミントン 案③：5会場

拠点化	男女合同	男・女別	男子のみ	女子のみ
-----	------	------	------	------

- - - 丸ノ内線
 - - - 三田線
 ——— 南北線

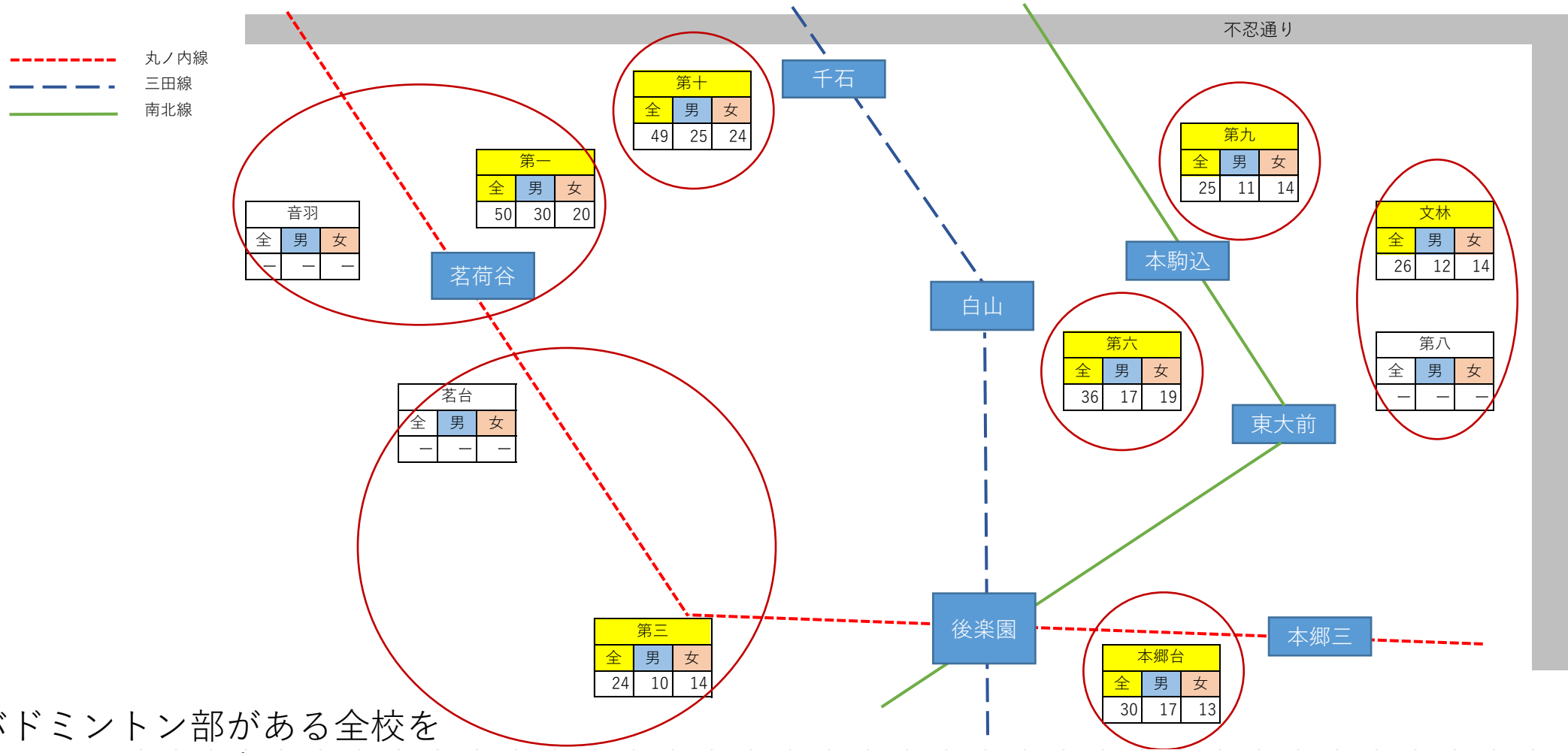


会場（拠点）あたりの生徒数がおおよそ40～50名規模になるように5会場（拠点）とした案（単独拠点校と合同拠点校の展開検証が可能）

【部員数は令和8年6月調査による】

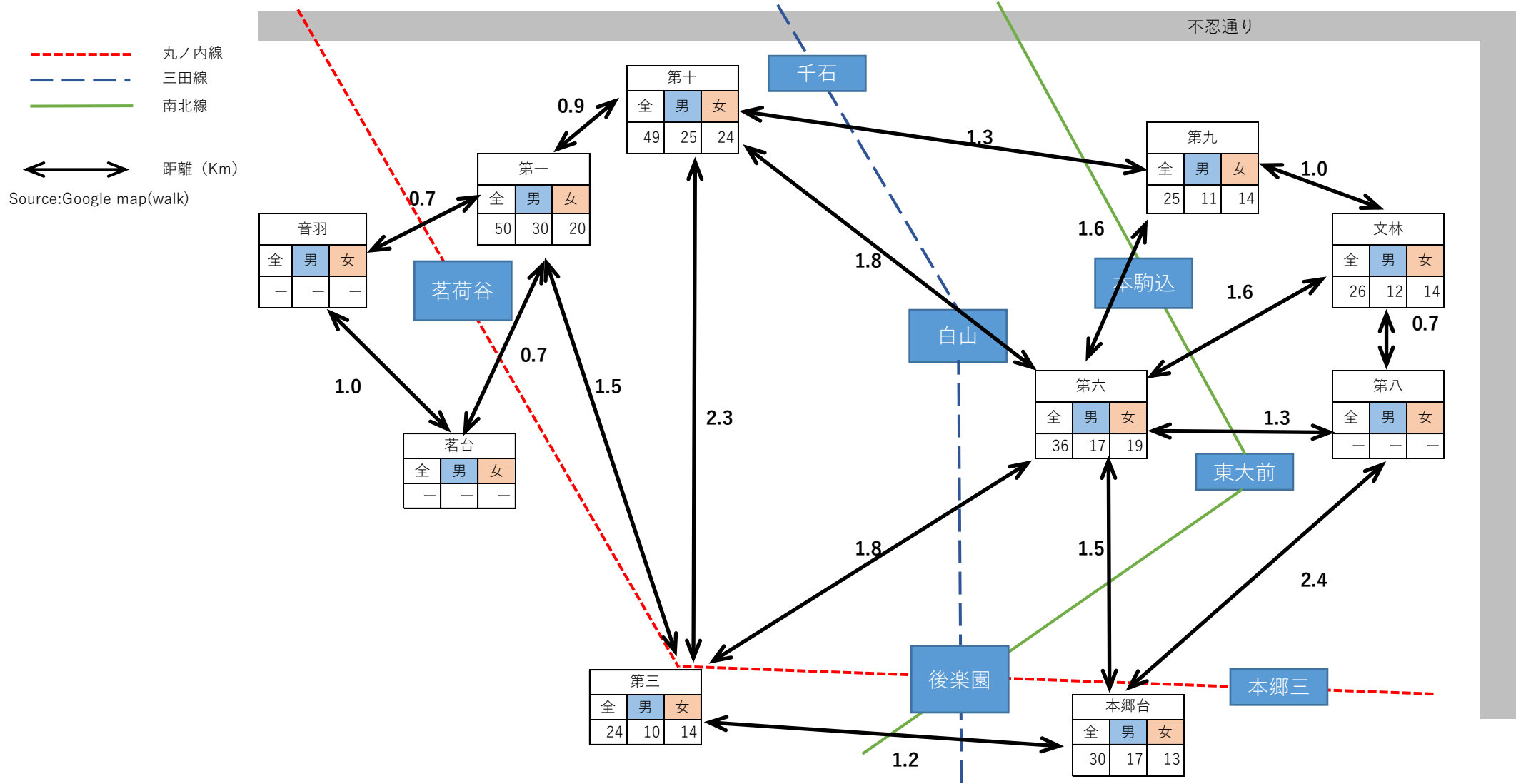
バドミントン 案④：7会場

拠点化	男女合同	男・女別	男子のみ	女子のみ
-----	------	------	------	------



現在バドミントン部がある全校を
拠点として展開する案

【部員数は令和8年6月調査による】



【部員数は令和 8 年 6 月調査による】